



もがみサポート塾（読み聞かせ）



もがみサポート塾（学習）

しています。少子高齢化の波が押し寄せている地域ではありませんが、高齢者の人達が中心となり「豊かな自然」保護や介護福祉や子育て支援のNPO法人を立ち上げ、地域の祭りの運営など人と人との結びつきを強めている元気な「お年寄り」の多い町です。ボランティアに参加してくれる方も生徒と接することによって元気をもらっているとか、最近物忘れが進んできたので一緒に学習することで「ボケ防止」になるなどと喜んでいきます。こうして、「お年寄り」がこのサポート塾に参加することで生き甲斐を見出していることも大きな意義であると思います。行政のみならずこのような地域の方々の積極的で自発的な学校へのかかわりは大きいものがあります。

もがみサポート塾の事務局は校内の余裕教室を活用して、そこを拠点に活

動しています。おもな活動は、コーデイネーター作成のサポート塾便り（町内回覧）、サポート塾ギャラリーの開催（町民の方々の写真、切り絵、ポタニカルアート、墨絵、水彩画、手芸、刺し子などの作品展示）、吹奏楽部のマーチングバンド大会の衣装づくり、校庭のバラ・紫陽花の剪定、駅前での挨拶・見守り隊活動、総合学習にかかわる地域ボランティアの紹介や幹旋、学習支援として数学塾・英語（英会話）塾（放課後、週1回程度）となります。また、冬季のスキー授業の実技指導などお願いしました。今年度はこれらに加え、昼休みの本の読み聞かせや3年生への学習支援として夏休作業中に大学生や地域ボランティアの協力を得て数学や英語を中心とした学習会をもちました。その他にも部活動支援として以前から各部活動に技術指導

を中心とした地域のコーチが指導に入っていました。また、野球・サッカー・吹奏楽部ではOBおよびその保護者を中心に地域後援会が立ち上げられており、生徒の練習試合・公式大会参加に向けた物心両面の支援体制ができています。

成果と課題

何か特別なことをやっているわけではなく「できそうなことをできるところから」はじめて、「継続」することを中心掛けています。地域と学校を連携することににより地域の人々が中学生のありように関心を持ち、それを生徒も感じ意識しています。その成果からか、今、生徒については大きな問題行動はほとんどなく、校内生活や学習・部活動に向かう姿勢は落ち着いてしっかりしています。挨拶も良くなってきました。そして、何よりも生徒間の自浄力や矜持が育ってきています。この事業をとおり多くの地域の人々の協力を得ることができ、学校と地域の結びつきが強まりました。まさに「地域の子どもは地域で育てる」です。数学塾や英語塾では生徒のやる気を引き出し「分かった」という思いをもたせたことも大きな収穫です。3年男子生徒は英語塾に参加した理由として「英語に

興味があり、その成績を上げたかったからです。最初の日は初対面で緊張しましたが先生との単語ゲームは楽しくすぐ打ち解けることができました。他にも分からないことの質問にも丁寧に教えてもらい、授業やテストでもよく分かるようになりました。私にとってサポート塾は宝物です」という言葉を寄せています。

地域の方々にサポート塾の趣旨をさらに浸透させるため積極的に啓発活動を進めることや数学塾、英語塾の学習ボランティアおよび参加者を増やすことなどが課題としてあげられます。今後は、図書館の環境コーデイネーターとも連携し、読み聞かせなどの読書活動をさらに普及させ、より良い言語環境を創りたいとも考えています。

学校は本来それ自体で存立しうるものではありません。家庭・地域との「連携」のもと、家庭では子どもが心身共に健康な状態で生活できる環境づくりを、地域では子どもを見守り育てる環境づくりが求められています。学校にはそれを基盤に「経営・授業・連携の改革」を一体的に推進していくことが求められております。この普遍的趣旨を踏まえ「もがみサポート塾」を中核に据え、細くとも長く取り組んでいきたいと考えています。

（校長 加藤岩雄）